

本年度第1回となるナイトセミナーを8月30日に開催した。今回は救急医療をテーマに各施設の現状について会員発表と、救急医療で見逃してはいけない「Killer disease」の画像について講演が行われた。

会員発表では、市内4施設から今年6月の救急患者の受け入れ状況について報告があった。秋田厚生 鈴木会員からは施設の現状と救急撮影時のポイントについて、また中通総合 齊藤会員からは繁華街に近いことから酩酊患者の来院が多いとの報告があった。赤十字 藤井会員からは交通外傷患者の受け入れ、大学 池田会員からは PCI 転院搬送などの各施設特徴のある症例の報告があった。救急患者に対する診療放射線技師の役割として各施設とも約半数に一般撮影やポータブル撮影が実施され、そのまた約半数には CT 検査も実施されていたとの報告もあった。

教育講演では秋田赤十字病院救急救命センター長 藤田康雄先生より Killer disease の診断と外傷をテーマにご講演いただいた。先生は「頭痛」「胸痛」「腹痛」の各症状を訴える患者で見逃してはいけない疾患、代表的な致命的疾患について一般撮影や CT 検査の画像を供覧しながら、そのポイントについて講演された。その際、診療放射線技師に望むことは画像の正常を知ること、その上で正常でない(つまり異常)を見つけ出す目を養うことが重要であると話された。

(記 谷口 直人)

